

清水遺跡 (4 地区第 2 次)

遺跡番号 208-114
調査回数 第2次
所在地 山形県村山市大字名取字清水北
北緯・東経 38度31分16秒・140度22分31秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道（東根～尾花沢）
調査面積 1,100 m²
受託期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日
現地調査 平成23年7月20日～9月9日
調査担当者 渡部裕司（現場責任者）・濱松優介
調査協力 村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡・炭窯跡
時代 縄文時代・平安時代・近現代
遺構 溝跡・土坑・柱穴・窯跡
遺物 縄文土器・土師器・石器（文化財認定箱数：1箱）

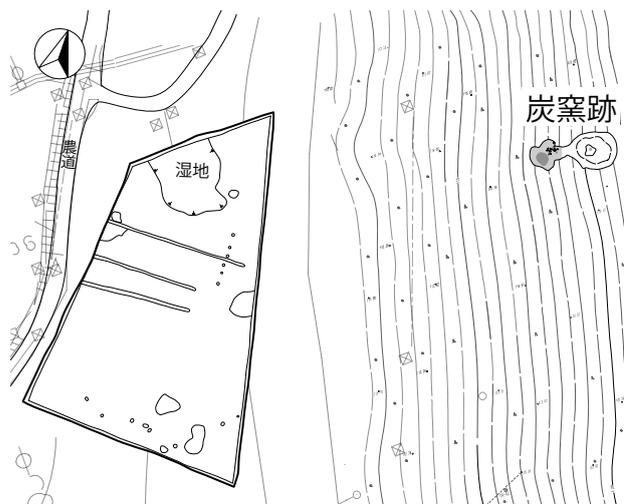


図1 遺構配置図 (1:1,000)

調査の概要

清水遺跡は、村山市東部の最上川が蛇行する右岸部に位置し、清水地区のなだらかな丘陵部上に立地する。遺跡範囲の最も北側に位置している地点を清水遺跡（4地区）と設定し、発掘調査を実施した。

調査区南側では倒木痕や小ピットを複数検出している。さらに北東部では柱列が一基見つかった。遺構に伴う遺物はないが、検出段階で縄文土器・土師器の破片と石器が出土した。石器は珪質頁岩製で、片側に刃部を持つナイフ形の石器である。



写真1 調査区全景（西から）

調査区の東側斜面では、炭窯跡が見つかった。標高は約120mを測る。窯の焚口部分の平坦部からは、窯から掻きだした炭化物や焼けた石が見つかり、さらに窯の内部では、壁面の一部分が赤く焼けている状態が確認された。この炭窯跡は、残存している形状や堆積状況から、近現代に操業していた炭窯と考えられる。

現在、炭窯跡がある山地には杉が植林されているが、植林以前は窯を築き、生活に必要な不可欠な炭の生産を行っていたことが明らかとなった。